



敬和学園大学

北垣宗治学長に聞く

敬和学園大学は、九一年四月開学、校地は新発田市と聖籠町の境界線の上、新新バイパスが終わる近くにある。学生九八一人、教員三五人で、キリスト教主義に基づく教育。人文学部（英語英米文学科・国際文化学科）のみ。

——地域に対して、どのような考えで臨んでいますか。

本学は、新発田市と聖籠町が誘致し、県もバックアップして下さった創立の経緯からいっても、地域を重視する方針です。建物にも聖籠館、新発田館と命名しているのもその表れです。

新発田市内の高校から二名ずつの推薦入学生をとっていますし、同じ法人経営の敬和学園高校からも二〇名から四〇名の推薦入学を受け入れています。

地域に役に立つ大学を、と望んでいます。

——地域との関わりで、どのような事業をやってこられましたか。

新発田市では公開講座を七年間続けています。聖籠町、村上市、笹神村、新潟の坂井輪地区にも広げてきました。また県の生涯学習の一環のウーマンカレッジにも三年間にわたって協力してきました。

聖籠町での九七年度のテーマは、「戦後の歴史と教育」、六月から七月にかけての六回シリーズで、毎回約二五人の受講生がありました。新発田市のは、「教

育の諸問題」として、八回（九月中旬から一月中旬まで）ほぼ七〇名、述べ五六〇人が出席しました。

また、キリスト教主義教育の一環としてボランティア活動に全学あげて取り組んできました。新発田市が「社会福祉都市」を宣言していることもあり、さまざまな福祉関係施設のご協力をえて、「福祉体験学習」を推進しています。たとえば、一年次の九月に「福祉体験学習週間」を設定して、ボランティアの歴史や意義、地域内福祉施設の紹介、施設での福祉体験学習などができるようプログラムを組んでいます。デイサービス施設、特別養護老人ホーム、小・中の養護学級などで二日間実習をします。終わったらレポートを書かせます。

この週間は、趣旨に賛同してくださるプロの歌手や地域のアマチュア・ミュージシャンをお招きして、学内で「ふれあいバライェティ」を開き、社会福祉施設の方々に楽しんでもらいます。

学内にボランティア・サークルができてさまざまなボランティア関係のイベントなどに招かれたりしています。

—— これからの計画や抱負はいかがですか。

二一世紀は社会福祉にたずさわる人がもっと要請さ

れますから、これに応えなければなりません。社会福祉学部を設置すればいいのですが、十億円以上が必要で、資金難等から無理です。そこで科目を設置して、社会福祉士の資格が得られるようなコースを考えています。

大学院は他の私立大学と協力して、連合大学院を作りたいと思います。社会人のリカレント・エデュケーション（回帰教育）にもおおいに役立つでしょう。ただ、新潟駅近くが立地条件となります。

国際交流の面では、すでにノースウエスタン大学（米国）、カリフォルニア州立大学（サンバナーディーノ校）、長春師範学院（中国）、アフリカ大学（ジンバブエ）等と交流していますが、東南アジアやイギリス、フランス、ドイツにも広げたいと思います。留学生はいま十二人います。さらに増えるように努めています。

先日も地域の市会議員や小・中・高校の教員が視察に見えました。市民から本学ができたことで地域の文化レベルが上がったなどの声を聞きました。いっそう地域に開かれた大学を目指して進みたいと思います。

（聞き手・文責・吉田武雄）